

○明治十七年十月十八日 參事院議官補兼恩給 波 正元 任參事院議官 周主事從五位勳五等 吉田 二郎 任外務省大書記官 內務書記官正六位勳五等 室田 義文 任外務省少書記官 領事正七位 中村 治郎 任領事

時事新報

左ノ一篇ハ英國倫敦七月廿五日附キ以テ同府ノ通信員ヨリ寄送シ來リタルモノナリ兵ハ護國ノ要具ト云フコト付日本國人中十分ニ其理ヲ合點シタル者ハ尙ホ甚ク少ナシト論スル所ノ如キ最モ時弊ニ適中シタルモノト思ハル 時事新報記者

國ト政府トノ區別

一國ノ政權強大ニ過ギテ全社會ノ事物悉ク其權内ニ籠メラレ、時ハ人民唯政府アルヲ知テ國アルヲ知ラズ政府ハ即是レ國、國ハ即是レ政府ニシテ國民ノ思想ニ判然其區別ヲ斷ルス所アルコトヲ國運文明ニ進ミ社會ノ事物漸ク繁多錯雜ナルニ從テ其事物漸ク政權ノ區域外ニ溢レ出テ遂ニ政權ハ社會事物ノ一小部分トナリ取テ萬般ノ事物ヲ包羅合蓄スルコトナシタル時ハ人民ノ思想ニ國ト政府トノ區別判然然レ國ハ即チ政府、政府ハ即チ國ノ混雜アルコトナシ今ハ日本ノ人ト當英國ノ人トノ思想ニ於テ其最モ著キ差異アル所ハ國ト政府トノ思想判然然レ然ラザルトノ間ニ在テ存スル者ノ如キ我日本ハ全社會ノ事物未ダ單一ニシテ其コレヲ組織スル所ノ元素モ亦繁多ナラズ單一ニシテ繁多ナラザルガ故ニ我政權ハコレ他國ノ政權ニ比シテ決シテ強大ニ過ギタリト云フベカラザルモ尙現時我國社會ノ他ノ事物ニ比シレバコレ強大ナリト云ハサルベカラズ政權ノ強大ナルハ固ヨリ國ノ爲メニ願フベキ美事ナレバコレ惡シト云フノ理ハ萬々アルベカラザレ如何ニモ我ノ國ノ事物ニ比シテハ大ナリ我國ノ社會ニ比シテハ強ナリ、大ナルガ故ニ社會ノ事物ヲ包羅シ、強ナルガ故ニ萬物コレガ爲メニ制セラル、目下ノ勢ニ然ルノミナラズ維新前ニ在テハ徳川家并ニ諸侯ノ政權殊ニ強大ナリ人民ノ思想中ニ國ト云ヘル考ナク偏ニ政府即チ其時ノ幕府又幕府アルヲ知レノミ故ニ凡ソ社會ノ事物一トシテ政權ノ範圍内ニ包羅セラレザル者ナク農工商一切ノ職業ニ至ルマデ命令ヒ其目的ハ一人一國ノ生計ヲ營ム者ニテモ其名ハ悉ク政府ノ名義ヲ以テ其頭ニ被ラシメザル者ナク御百姓ト云ヒ御主人ハ爲メト云ヒ御家ノ爲メト云ヒ太ダシキハ人間貴重ノ生命ヲモ政府又御主人ノ爲メニハ之ヲ犧牲ニ供スル者アリ如此ハ當ニ政府アルヲ知テ國アルヲ知ラザルモノナラズ御主人アルヲ知テ我一身ノアルヲ知ラザル者ト云フベシ斯ノ如ク我日ヨリ日政府アルヲ知テ國アルヲ知ラザル者多ク當英國ノ如キハ然ラズ社會ノ事物日ニ繁多シテ又月ニ繁劇ナリ其事物繁多ナレバ政權強大ナリト雖モ悉ク此事物ヲ包羅スルヲ得

ズ惜モ社會ノ事物ハ政權ノ區域外ニ溢レ出ヅルノ狀アリ斯クナル以上ハ自カラ人ノ思想ニ政府ト國トノ判然然タル區別ヲ生シ政權ト國權ト其思想中ニ混雜スルコトナク此事ハ政權ニ屬スルコトナリ彼ノ物ハ國ノ全体ニ關スル事ナリトコレヲ分別スルコトナリ斯レ彼我ノ人民其思想ノ廣狹ヲ異ニスルコトナリ其思想ニ基固スル所ノ現象ニ於テモ亦大ニ彼我ノ別アリ既ニ英ハノ如キハ國ト政府ト判然然タルガ故ニ内ニ政黨排斥々其利害ヲ異ニスル所ノ諸黨派アリテ互ニ利害ヲ争ヒ勝敗ヲ競フト雖モ國外ニ對スル時ハ政黨トモ云ハズ黨派トモ云ハズ全國ノ力ヲ舉ケテ外交ノ政略ニ當ルガ故ニ其威權太ダ強ク政黨ハ政權ノ事ナリ外交ハ全國ノ事ナリ全國ノ事ヲ處スルニ其際區々タル政黨ノ思想ヲ披キカラス必ズ其全面ヲ以テコレニ對セザルベカラズ今左ニ其實例ヲ援テ以テ此理ヲ證セン抑モ一國ノ兵力ハ其時ノ政府ノ屬スヘキ者ナルカ又ハ全國ニ屬スベキ者ナルカ固ヨリ國內ノ安寧ヲ維持スルニハ是非トモナクテ叶ハス者ナレ其主眼ノ大目的トスル所ハ外ニ對シテ國ノ体面ヲ維持スルニ在リト云フモ敢テ誤謬ノ見ニハアラザルベシ即チ兵權ハ當時ノ政府ノ私有ニハアラズ全國ニ屬スルノ公有物ナリト云フベシ然ルニ我國古來ノ習慣ト現時ノ狀体トヨリテ兵力ヲ以テ殊ニ政府ノ屬スル者ナリト誤認シ昔日コト云ヘハ御用ノ陸軍御用ノ海軍トコレヲ思ヒ誤マリ自家一身ノ爲メ我國獨立ノ爲メ此兵權アルコト覺ラザル者少シトモ兵權ヲ整フルハ即チ現時ノ政權ヲ強大ナラシメンガ爲メモノナキ事共々スル人ナキコトアラズト雖モ此流ノ人ハ未タ國ト政府トノ二者ヲ判然然思想内ニ區別スルコト得ズシテコレヲ錯雜混合スル者ナリ一國ノ兵備ヲ嚴重ニ整ヘ以テ萬國ニ對峙セザルベカラズト云ヘルコトハ人々皆同意ナルベシレ其思想ニ錯雜スル所アルガ故ニ護國ノ要具タル兵權ヲ以テ政府ノ要具ナリト誤認シ海陸ノ兵權悉ク現政府ノ手裏ニ歸スル時ハ我國從來ノ爲メ其災害測ルベカラズ或ハ兵力壓制ノ政府トナル哉モ亦知ルベカラズト掛念スルニ至レリ英國ノ如キ兵權ト政權トハ全ク其區域ヲ異ニシ兵權ハ護國ノ要具ニシテ政權ハ政黨ノ争フ所ナレバ内外ノ區別判然然ト分レ武人ハ唯其執政黨ノ指揮ニ從テ其職ヲ竭ク昨日迄ハ自由黨政府ノ命ヲ奉テ戰場ニ臨ミシモ今日ハ守成黨政府ノ命ニ從ハザルベカラズ何人ガ政權ヲ執リ何黨ガ朝ニ立ツモ敢テ軍人ノ關スル所ニアラズ軍人ニシテ政黨ノ爲メニ其行フ所ヲ左右スルハコレヲ武人ノ耻辱ト云フベシ國民モ亦兵備ハ現在ノ政府ニ屬スル者コトアラズ國ニ海陸軍ノ備アルハ全國人民ノ爲メニシテ當時在朝ノ政黨ノ私有ニ屬セザルコト知ルガ故ニ兵權ヲ視テ所謂御用ノ海軍御用ノ陸軍トナス者ナシ故ニ在朝黨ハ毎ニ國費ノ多端ナルヲ憂ヒ可成軍費ヲ節減センコト欲スレド却テ下院ニ於テハ當ニ其節減ヲ拒

ムノコトナラズ年々其軍用ヲ増加シテ止ムコト知ラズ人民ニ於テ決シテコレニ不平ヲ唱フル者ナシコレ蓋シ兵ハ護國ノ要具ニシテ在朝黨ノ私器コトアラザルコト明知シ又護國ノ爲メニ兵權ノ必要ナル所以ヲ知ルガ故ナリ我國人ナシテ英人ノ如ク國ト政府トノ思想ヲ判然然分別セシメ兵權ト政黨トナシテ全ク其區域ヲ異ニシ目下ノ現狀ナシテ兵力ハ護國ノ要具ニシテ在朝黨ノ私器コトアラザルコト世人ノ曉會ヲ得ルカ如キ狀体ニ改メ文武ノ官職ヲシテ分離而立セシメテラバ我國人ト雖モ護國ノ兵備アルヲ願ハザル者アラザレバ海陸ノ軍備ヲ擴張スルニ些細ノ軍用ヲ増スコトアルモ難レカコレニ不平ヲ唱フル者アラフヤ

佛清事件

○佛國政府の命令 去る十八日永田明なる佛國公使館へ達したる官報なりと一昨日の横濱佛字新聞の左の號外と出ししなり 官報 水師提督「クレベール」は佛國共和政府より台灣の封鎖ヲナスベキ命令ヲ受ケタリ ○クレベール氏の軍略 去月十六日龍動發の報ハクレベール提督の軍略は先づ雞籠を略取し進んで淡水を取り斯くて臺灣の北部を占領し支那兵を南部の地方へ追除けんとするの在リクレベール氏は斯くする時は南部地方の山間に住する土蠻は固より支那人と敵對するを以テ支那兵は前後敵を受け困弊して自ら潰ゆべしと見込なりと云ふ然れ共此軍略は恐くは其功を奏せざるべしとの評判あり其故は東京より新に來り加はりたる一千の兵のみおてハ雞籠を取るに足らざるべく且つ雞籠より淡水迄の道路は深室相連なり進軍に不便なればなりと見ゆ此報はクレベール氏が尙艦隊を率ゐて福州の海口を從泊せし頃龍動を發ししものあるが之を見ればクレベール氏が臺灣攻撃の軍略は其頃早く既に龍動に洩漏せしなりと知る但し雞籠占領の一事は英人の豫想も反し手もなく其功を奏ししれ共淡水の攻撃ハ佛軍未だ充分に勝利を得ず是れ其道路險阻進軍不便なる故あるか ○クレベール氏軍功 佛國政府がクレベール提督の軍功を稱ゆる爲めにレジオン、ド、オノールの勳章を授けんとする由は昔て記載せしが大統領グレヴキエー氏ハ先頃人に語りて昔レジオン三世が自ら工夫して佩用したる武勳の賞牌の未だ以てクレベール氏軍功を表章するに足らずと云ひし由 ○捕拿物裁判所 佛國にては今度清國との戰爭に付き捕拿物裁判所を設けグロウエルド氏を判事長に任じざる由此捕拿物裁判所とは國際法の書を讀みざる人の皆知れる如く戰爭の時交戦兩國が海上にて敵國の船艦其他の物品を捕拿し又ハ中立國の船が國際法を破りて敵軍に戰時禁貨を輸送せるものを捕獲する故より起れる訴訟を審理する爲め兩國各之を設くるものにして國際法に於ては中立國も皆此裁判所の判決に従はざるを得ざる慣習なり ○佛國書記官の請願 北京の佛國公使館に在留せし書記官

某は支那の近況に在りて去月十八日 ○支那海軍に在ス 艦は甲鉄艦一艦二艘あるが露國那の沿海に於て居留するに當り見乏たり ○巴里新聞の報 聞が福州攻撃のたる由は嘗て之に付大に憤怒ある米國人」を以て人を説き包藏せざるはを讀て己等がいさるを哀む又昔年大敵如き無理よしし云々と云ひ ○香港騒動のしる次第のホルダー氏が氏と云へるは到着し是よりりしが其日の動場の近傍も片を氏の頼にが四邊を見て氏を招く様走るを目撃し中にて駛入を投ずると急して小さき旗掛けて此に至るの中を衝抜も警吏は携へ發射せざるも若からずとしかば警吏等たるに支那